

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース



兵庫県支部ホームページ

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

- 2...神戸まつりパレード
- 3...スマトラ地震・津波被害支援報告
- 4、5...インド報告(ユネスコスタディーツアー)
- 5...募金、支援、ボランティア募集
- 6...講演会などのお知らせ[7月、8月、9月]

Vol.13
(2005年夏)

2005年5月14日(土) 神戸まつりパレードに参加しました

天候にも恵まれ、大勢の観客の中を行進しました。



くまの着ぐるみ あれこれ

石本 愼子

「今年はフロートは出ません」

「えっ、パネルとピエロだけ」「……」「ちょっと寂しいねえ」

「着ぐるみがあると良いよね。くまとか、うさぎとかね」

わいわい、がやがや、神戸まつりの打ち合わせ

が始まった。くまの着ぐるみを作れないかなあ？

頭はどうして作る？ フーゼン、ビーチボール、

ザル、提灯etcいろいろ意見は出るがなか

なかピタッとこない。

言わなければ良かった……と後悔の日々、

寝ても覚めても考えるのはくまの頭のことば

かりだった。そんなある日、友人に電話で

相談した。「くまの着ぐるみを作りたいのだけ

けれど、頭はどうして作れば良いかしら」。美

術の先生をしていた彼女は「自分の好みの大き

さに新聞紙を丸めて、その外側を紙粘土で形作ると良いよ」

とアドバイスしてくれた。さすがだ。これなら私にも出来そう

な気がした。こうして、翌日から私のくま作りが始まった。

紙粘土で作ったくまに布を着せて、4歳の孫に「これなに？」

と聞くと少し考え「あっ、くまや」と、うれしい答えが返ってきた。

やった！くまに見えるんだ。毎日幼稚園から帰ると部屋をのぞ



いては「くまさんのおめめかわいい」「くまさんにてるよ」と励ましてくれた。

近所の電気店で発泡スチロールを買って、それを頭の形に削った。静電気が起こり部屋中真っ白、まるで安物映画の粉雪シーンのような感じ。息子の頭に任せ「こうしてくまを被るんだけど、どう？」と聞くと「うーん」と首を右に左

にかしげ、「もう少し深くしたほうが良いなあ」と

言い、それを手に取って削り始めた。顔も手足も体中真っ白になった。「Rちゃん、もう1枚UNICEFを印刷して。後ろもつけたいのよ」。それを見ていた主人が一言「自分で出来ないことを引き受けるな」と言った。「……」そんな彼もくまを見る目は微笑んでいた。

次から次へと出てくる難問を一つずつクリアして、やっと完成した。私が着て主人がにわかカメラマン。ハイポーズ！主人が仕事の合間にくまを事務所へ持参、いえ、連れて行ってくれた。くま作り

に家族全員を振り回し大迷惑を掛けたが、コミュニケーション不足のわが家に笑いと会話が生まれた。ユニセフはここにも幸せを運んでくれた。そして神戸まつりではくまが一番の人気者だった。「幸せを運ぶくま」の兄弟作ってみませんか？

今度はあなた、あなたの番ですよ。

「生活創造フェスティバルin神戸2005」が5月21日(土)、22日(日)に神戸クリスタルタワーで開催されました。年に一度のイベントには、57の登録グループが参加し2日間で合計4千600名の来場者がありました。

兵庫県支部では、カード・グッズの展示販売を中心に参加して、ユニセフの活動をより多くの方々に知っていただく機会を得ました。

5月11日(水)、26日(木)、28日(土)、6月4日(土)の4日間ユニセフボランティア講座を実施しました。新しいボランティアさんが増えたことで、ボランティア間の交流も兼ねて、ユニセフの基礎知識、県支部のボランティア活動の内容、年間計画などを、わかりやすく現在活動されているボランティアの方にお話いただき、募金の流れや兵庫県支部のホームページについても説明がありました。

今後はこのような講座をボランティア連絡会の中で実施していきます。興味のある方はお気軽にのぞいてみてください。

「生活創造フェスティバルin神戸2005」が5月21日(土)、22日(日)に神戸クリスタルタワーで開催されました。年に一度のイベントには、57の登録グループが参加し2日間で合計4千600名の来場者がありました。

兵庫県支部では、カード・グッズの展示販売を中心に参加して、ユニセフの活動をより多くの方々に知っていただく機会を得ました。

5月11日(水)、26日(木)、28日(土)、6月4日(土)の4日間ユニセフボランティア講座を実施しました。新しいボランティアさんが増えたことで、ボランティア間の交流も兼ねて、ユニセフの基礎知識、県支部のボランティア活動の内容、年間計画などを、わかりやすく現在活動されているボランティアの方にお話いただき、募金の流れや兵庫県支部のホームページについても説明がありました。

今後はこのような講座をボランティア連絡会の中で実施していきます。興味のある方はお気軽にのぞいてみてください。

「生活創造フェスティバルin神戸2005」が5月21日(土)、22日(日)に神戸クリスタルタワーで開催されました。年に一度のイベントには、57の登録グループが参加し2日間で合計4千600名の来場者がありました。

兵庫県支部では、カード・グッズの展示販売を中心に参加して、ユニセフの活動をより多くの方々に知っていただく機会を得ました。

5月11日(水)、26日(木)、28日(土)、6月4日(土)の4日間ユニセフボランティア講座を実施しました。新しいボランティアさんが増えたことで、ボランティア間の交流も兼ねて、ユニセフの基礎知識、県支部のボランティア活動の内容、年間計画などを、わかりやすく現在活動されているボランティアの方にお話いただき、募金の流れや兵庫県支部のホームページについても説明がありました。

今後はこのような講座をボランティア連絡会の中で実施していきます。興味のある方はお気軽にのぞいてみてください。

ユニセフ駐日事務所広報官 永島路子さん コープこうべ通常総代会でスマトラ沖地震・津波の現地状況などを報告



6月14日(火)に開催されたコープこうべ通常総代会で、ユニセフ駐日事務所広報官の永島路子さんが、スマトラ沖地震・津波による被害やユニセフの復興支援活動について、報告されました。コープこうべに12月から4月25日までに寄せられた「緊急ユニセフ募金」は約1473万円。4月26日からの「復興支援募金」の金額は約2980万円に達しています。みなさまの温かいご支援、ありがとうございます。

コープこうべ通常総代会の前の貴重な時間をいただき、神戸ポトピアホテルの間(控室)で、2月に黒柳徹子さんのバンダ・アチェ被災地訪問に同行された永島さんのお話を聞く「即席の報告会」を開いていただき、県支部ボランティア11名が参加しました。

「子どもの保護」、「保健と栄養」、「水と衛生」、「教育」の4つの柱で

緊急支援は展開されました。永島さんはこの4月、UNFPA(国連人口基金)からユニセフに着任、その準備もかねての同行訪問で、他機関に比べて緊急支援に強いユニセフのネットワークを感じたこと。物資調達・支援プログラム作成・研修についてユニセフがインシアティブをとり、実働は現地の人たちにまかせて子どもたちに現地の歌を歌ってあげたいという、子ども保護センターの様子をお聞きし、日頃支援についてこうあるべきといわれる形そのものが展開されているように感じました。OCHA(国連人道問題調整室)を中心に、ユニセフ・NGOなど支援に参加している色々な機関が、全体のコーディネートのためのミーティングを頻繁に開き、現地のあちこちをみてきた人どうしが情報交換をすることで効果的に機能していたということです。

バンダ・アチェ(アチェ州の州都)は、分離独立運動などの政治的緊張が続いている地域で、震源地に最も近く壊滅的な被害を受けました。当初はメディアも入れないことから被害の実態すらわからず、ユニセフも政府同行で現地に入ることができたとのこと。山の上に打ち上げられた船などの津波直後の映像が被害の大きさを語っています。

「子どもたちの心のケア」では、描いている絵のすざさ、真っ黒・まっ茶色にぬられた津波や子どもたちの口調が淡々としていることに心を打たれたと話される様子に、私たちも改めて考えさせられました。子どもは子どもどういすることで、子どもらしさを取り戻して行く、学校に来てはじめて日常生活にもどれる子どもたち。家族を失った8歳の女の子の、それでも笑顔が心に残ります。

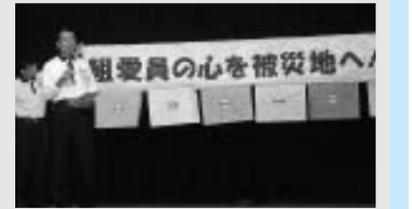
被害から約6カ月が経ち、支援も緊急支援から復興支援へと切り替わっていく中で、ユニセフからも日本政府に支援の延長について要望して行く予定とのこと。バンダ・アチェを含む被害を受けた人たちが子どもたちのことを忘れないことが私達にできること、という思いを新たにしました。

コープ・ユニセフ スマトラ沖地震・津波復興支援募金 キャンペーン始まる(4月26日~12月末)



4月26日(火)、シアター「コープ・ユニセフ スマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーン」のスタート記念イベントが行われ、元全日本ラグビー代表で県支部評議員の大八木淳史さんのトークショーがありました。

子どもたちが笑顔を取り戻すまで~ コープこうべ第3地区 組合員と職員をつどい



6月4日(土)、コープこうべ生活文化センターで「第3地区組合員と職員をつどい~子どもたちが笑顔を取り戻すまで~」が開催され、スマトラ沖地震・津波の被災地への組合員や職員の支援活動が報告されました。県支部では、現地の被災状況やユニセフの取り組みをスライドを交えて行いました。募金活動の事例発表も行われました。

スマトラ沖地震・津波被害 復興支援街頭募金

6月18日(土)、JR住吉駅で兵庫県支部の学生グループ、ユニーズがスマトラ沖地震・津波被害の支援のための街頭募金を呼びかけました。

神戸市立湊中学校での はじめての学習会

ユニーズ 藤田 佳美

今回ははじめて学習会の講師をしてとても緊張しました。学習内容は「国際協力」。ユニセフの活動内容と兵庫県支部の活動について、「ユニセフと地球のともだち(ヒデオ)や簡単なクイズを交えながら話してきました。今回の学習会で中学生によりわかりやすくするにはどうしたらいいか、話を聞いていない人が退屈しない進め方や話す内容を考えるのに苦労しました。実際に話をしてみると50分という時間はとても短く、話したい内容を事前に考えておかないといけないという事がよくわかりました。学習中はサポーターをしてくださった真淵さんに、いろいろと助けていただき、何とか無事に終わりました。

これまでに訪問して開いた学習会

訪問日	訪問先	人数
4月13日	宝塚中ロータリークラブ	80
4月19-22-23日	コープこうべ生活文化センター	25
4月26日	コープこうべ施設部	10
5月18日	コープこうべ第4地区	35
5月20日	フレンドシップクラブ	20
6月6日	神戸市立湊中学校	97

子どもたちの笑顔が 教えてくれたこと

ユニーズ 川本 朋子



寺子屋開所式にて いっしょに

未知の国、インドへ

昨年12月26日から1月8日まで、ユネスコのスタディーツアーでインドに行ってきました。これは、日本ユネスコ協会連盟がインドで行っているプロジェクトと世界遺産の視察を目的としたもので、毎年一回開かれています。私は、募金がどのように使われ、現地の人々が支援をどのように思っているのかを自分の目で見てみたかったことから、このツアーに応募しました。ボランティアを始めてから様々な人と出会い、やはり実際に自分もいわゆる「途上国」を自分の目で見てみたい、という単純ですがそのような気持ちが芽生えていたように思います。

学校が始まるのは夜

今回のツアーの最大の目的は、「世界寺子屋運動」とよばれる教育プロジェクトが行われている、インド南西部カルナータカ州ゴカックの訪問でした。ムンバイから、かつてスペインの植民地であったゴアに飛び、そこからバスでいくつもの山を越えること10時間。ゴカックという小さな田舎町に6日間滞在しました。ここで日本ユネスコ協会連盟はインドの現地 NGO 「BIRDS」(ベルガウム農村総合開発協会)とともに、「インド・ゴカックプロジェクト」と呼ばれる農村開発事業を行っています。これは、カルナータカ州ゴカック郡の45村を対象に、寺子屋で読み書き計算を学ぶ機会を提供し、村人達が様々な知識と生活に必要な技術を習得して自分達の置かれた状況を自力で変える力をつけることを目標として2001年に始まりました。昼間は働いていて学校に行くことができない子ども

ちや、学校に通えなかった大人を対象に、週6日、夜7時から9時の時間帯に識字教育(スキルトレーニングとよばれる)をお香、ロウソクなどのものづくり(ある)を実施したり、ミンの技術を学ぶ職業訓練を実施するなど、さまざまな活動を行っています。

私が訪問した村では、男の子と女の子は別の部屋で勉強をしていました。私が訪れた日は、女の子達はものづくりの日で、お香とロウソクをつくっていました。細い棒に粘土状の炭(?)を均等につけていく作業でしたが、意外に



両手をあわせて、「ナマステ」

難しく、上手につくることはできませんでした。週に2日はこのようなスキルトレーニングも行われているそうです。

また、男の子達が学んでいる部屋の中には、子どもたちに混ざって、私と同じくらいの年齢に見える男の人と一緒に机を並べていました。彼は農夫でしたが、寺子屋で文字を覚えるようになってから、どの時期にどんな種をまいたらいいかなど、より効率的に農業をすすめることができるようになったと語ってくれました。

「母は私の神」

年末は、BIRDSが運営している大

学の学生との年越し交流会を行いました。いくつかゲームをした中でも、私が最も印象的だったのは、「ハッピーになるために必要なものは何?」というディスカッションの中でのエピソード。6人くらいの各班の中で、それぞれが必要と思うものを3つ書き出して話し合ったのですが、私の班では、「母親」と書く人が多く、とても驚きました。理由を尋ねたところ、「母親がいなかったら今の私はない。すべての生き物は母親(女性)から生まれているから母は神のような存在。精神的な部分でも、母から受け継いで

いるところはたくさんあるのよ」という言葉が返ってきて、答えの奥深さに感動してしまいました。また、「インドでは、女性はあまり尊敬されないけれど、私は私の母親を一番尊敬している。将来は、母親のために働いていきたい」という言葉にも、感動を覚えました。言葉そのものに感動した、というよりも、まっすぐな瞳と、母親に対する絶対的な尊敬心が伝わってきて、母親に対する愛情の深さを感じました。

各班の中で、日本を象徴する写真の紹介もしました。私が、日本人の血となり肉となっている(!?)米づくりの紹介をしようと地元長崎の田んぼの写真を見せると、米よれ「長崎」の写真であることに関心を示し、「原爆が落ちて焼け野原になった長崎で、米が育つはずがない」と言われたのはとても興味深かったです。

「ありがとう」のひとつと笑顔があればいい

人から何かしてもらったとき、「ありがとう」と笑顔で言葉を交わすこと。どんな小さいことでも感謝の気持ちを持って

相手と接すること。そんな単純なことが、もしかすると生きていく上で一番大切なことなのかもしれない。インドの子どもたちの写真をとったとき、「ありがとう」と言って握手を求めてきた、あのキラキラした瞳が忘れられません。「ありがとう」という最もシンプルな言葉と笑顔は、こんなに人をハッピーにさせてくれるものなのかと感動を覚えました。大切なことに改めて気付かせてもらったように思います。

ほんとうの豊かさとは一体何だろう、と旅の途中で何度も考え、悩みました。インドに行けば、自分がいかに恵まれているのかが分かるはずだと言われていました。確かに、物質的な面から言えば日本は豊かで恵ま



上：村にできた寺子屋の前で
中：とびきりの笑顔でハイポーズ
下：これから寺子屋に通う子どもたち



れています。お金を貯めて、自分が欲しいものを手に入れることができるし、自由に他国へ行き、自分が見たいものを見て新しい世界に出会うことも可能です。生まれた時から身分が定められていて、生き方も決められている人たちがまだこの世界にたくさん存在するという現実からみれば、そのような自分は確かに恵まれています。しかし、旅を通じて、精神的な面から言えば、必ずしも豊かだとは言えないのかもしれない、インドの方が豊かなのかもしれないとも思いました。身内だけでなく、見知らぬ国から来た私たちにも笑顔で挨拶を交わし、手を握ってくれる。「人」を大切にしている。家族を大切にしている。同じ村に住む母親同士が互いに話す場を持ち、つながりあっている。「人とのつながり」を大切にしているインドの方が、精神的な面では、今の日本より「豊か」だといえるのではないかと感じました。

これからの私の課題は、この経験をどうつなげていくか、ということです。それは、この旅を通じて私を感じたことを忘れない工夫、努力をすること、つまり、自分が見て

感じてきたことを多くの人に伝えていくことだと思っています。

子どもの笑顔。それは何物にも変えることのできない宝物だと実感しました。きっとインドでも、日本でも、どんな国でもそれは同じです。私なりの形はどのようなものかまだ分かりませんが、子どもたちの笑顔を守っていききたい、という気持ちは明らかにこの旅の中で生まれてきたように思います。「支援してくれるのはうれしい。でもそれ以上に、自分たちに関心をもってくださるとうれしい」。現地で活動している方の言葉が心に残っています。これからも、関心を、心を寄せ続けていきたい。インドで出会った、宝石のような笑顔を持ったあの子どもたちの顔を思い浮かべながら...ここからがスタートです。

川本さんは、今年12月、JICAの青年海外協力隊員として中米ホンジュラスに2年間滞在の予定で出発します。(県支部事務局より)

「募金ありがとうございます」欄を中止します

前号まで掲載していました、募金にご協力いただいたみなさまへのお礼記事「募金ありがとうございます」欄は、個人情報保護のため今号から中止します。みなさまには深く感謝申し上げますとともに、ご理解、ご協力いただけますようお願いいたします。なお、個別に掲載をご希望の方はお申し出ください。

県支部では、今後とも、ユニセフ活動にご協力いただきましたみなさまの個人情報の適切な保護、管理に組織全体で取り組んでまいりますので、より一層のご支援ご協力を願います。

* ご協力ください *

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします

口座番号：00190-5-31000

加入者名：(財)日本ユニセフ協会

通信欄に「K1-280 兵庫県支部」とご記入ください。

会員って ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも 1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生 1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業 1口 100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

スマトラ沖地震・津波復興募金

郵便振替：00110-5-79500(送金手数料免除)

通信欄に「スマトラ K1-280兵庫」と記入

スーダン・ダルフル緊急募金

郵便振替：00110-5-79500(送金手数料免除)

通信欄に「スーダン K1-280兵庫」と記入

イラク緊急募金

郵便振替：00190-5-31000

通信欄に「イラク K1-280兵庫」と記入

アフガニスタン緊急募金

郵便振替：00190-5-31000

通信欄に「アフガニスタン K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金

郵便振替：00190-5-31000

通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入

【共通】 口座名義：財団法人日本ユニセフ協会
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。

ボランティア募集

みなさんの大切な時間、ボランティア活動を通じて世界の子どものために目をむけてみませんか。学習会の講師やイベントへの参加、事務局、広報誌作成など。あなたにあったものを見つけてください。興味のある方、ちょっとのぞいてみませんか。ご連絡お待ちしております。

7月24日(日) 13:30~15:30

ユニセフ講演会

●「私が出会った世界の子どもたち」

ところ：コープこうべ生活文化センター 2階ホール

講師：箱山富美子さん(元ユニセフ職員)

実際にユニセフの支援活動の中で出会った子どもたちを通じて、箱山さんが語りかけてくる言葉に、いっしょに耳を傾け思いを寄せてみませんか？ みんなでいっしょに、「本当の国際理解」について、話し合ってみませんか。

無料[要予約]



箱山さんプロフィール

神奈川県出身。1985年からユニセフに入る。ラオス、アルジェリア、スーダン、モリタニア、コンボなどのユニセフ現地事務所を経て2004年に帰国。現在は、北海道・藤女子大学教授として活躍中。

8月20日(土) 13:00~15:30

平和を願うつどい

●「いのち 伝える ~ 被爆から60年を生き抜いて ~」

ところ：コープこうべ生活文化センター 2階ホール

講師：日本ユニセフ協会兵庫県支部会長 竹本成徳

共催：日本ユニセフ協会兵庫県支部、コープこうべ第3地区

中学時代に広島で被爆。被爆者でなければ分からない苦しみ、悲しみを心に受けながらも今日まで力強く人生を歩んで来られました。戦後60年、震災10年、日本ユニセフ協会50年の節目に平和の大切さ尊さを、熱くあなたの心に語りかけるお話です。

無料[要予約]



9月17日(土) 10:00~15:30

コープこうべ 被爆・終戦60年イベント「未来につなぐ“今、私たちにできること”」

●地球のステージ

山形の精神科医、桑山紀彦さんが、国際医療救援活動の中で出会った世界の子どもの姿を、映像とライブ音楽、語りを通して伝える感動のステージ!



無料[要予約]

ところ：コープこうべ生活文化センター 2階ホール、西館体育館など

主催：コープこうべ

後援：日本ユニセフ協会兵庫県支部

9月24日(土) 開演14:00(開場13:30)

ユニセフチャリティ

税所美智子ハートフルコンサートパート

●音の向こうに情熱《アパッショナート》

クララシューマンとロマン派音楽家たち

ところ：

尼崎アルカイク大ホール

入場料・当日 2,500円(税込)

前売 2,000円(税込)

講演会などの参加お申し込み、お問い合わせは兵庫県支部まで TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

あとがき

戦後60年。今日ニュースで沖縄戦を実体験した方の絵画展のことが報道されていた。「語るのは辛く今まで子どもにも話していなかったが、あつてはならないことがあったことを、忘れず伝えていかなければならない」と話されていた表情が深く心に残る。支部でもいくつかの企画が予定されているが、それを通じて考えなければいけないもの、大切にしていきたい。(K)

Wish

Vol.13号(2005年夏)

ユニセフ兵庫ニュース

2005年(平成17年)7月1日発行(季刊)

発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

(平日の10時~16時)

案内図 JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分



ユニセフ兵庫支部
(コープこうべ生活文化センター4F)